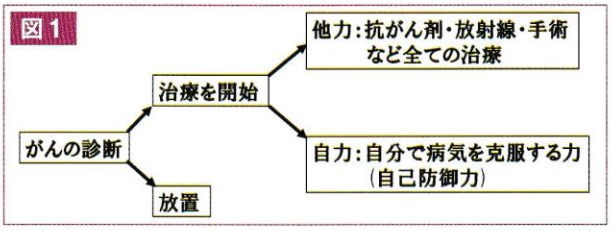
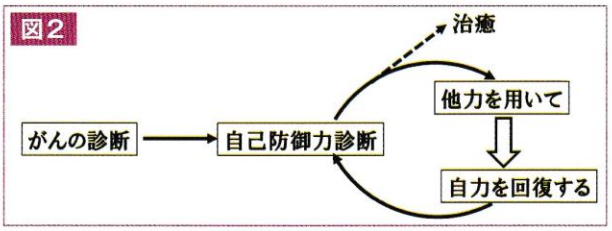
医師は語る

医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

がんに克(か)つための主導権

がんに克てるかどうかは、主導権がどこにあるか?にかかっています。つまり自分の体の力(自力)なのか、他から与えられる力(他力)なのかということです。患者さんの多くは抗がん剤や放射線、手術などの治療法にとても大きな期待を寄せています。もちろんそうした治療を選択されることは、何ら問題ありません。大事なことは、がんを治すための目標を間違わないことです。がんを治すには、自力以外にありません(図1)。自分でがんを克服する力を持たない限り、がんは決して治りません。抗がん剤や放射線、手術などの治療法はすべて他力であって、自力ではありません。ですから抗がん剤や放射線、手術などの治療を受けて、その後がんが治ったという患者さんがおられれば、それは自力が回復したという意味です。もし抗がん剤や放射線、手術ががんを直接治癒(ちゆ)する方法だとするなら、すべてのがんはこれらの治療によって、あっという間に治るはずです。しかし、現実は皆さんの方が良くご存じでしょうが、何度も何度もがんは現れます。そして大変しつこいです。がんを治癒する目標は、紛れもなく自力をつけること、そのことを忘れないでください。

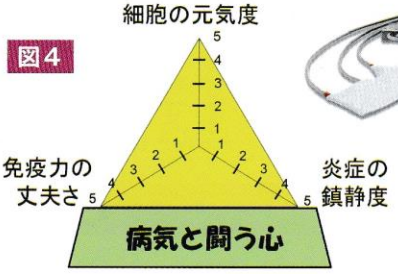




がんは自力(自己防御力)で治すもの

がんは自力で治すものです。〝自分でがんを克服する力強さ〟を取り戻すことです。このような力のことを〝自己防御力〟と呼んでいます。最初と最後の文字を合わせると、まさに〝自力〟です。自己防御力とは自力であり、自力ががんを治癒する唯一の方法です。がんだと分かって患者さんが行うすべての治療は他力であり、この他力を用いて自力を回復するのです(図2)。がんだとわかったら、まず自力を評価するために自己防御力診断を行います。その結果を考慮して他力の治療法を選択します。それをある期間実施してから再び自己防御力診断で自力の回復状況をチェックします。その結果を踏まえて他力の治療法を再調整するのです。これを繰り返しながら自己防御力が回復し、安定した先に治癒が待っています。がんの重症度にもよりますが、がんの治癒は早くて一年、多くの場合三年、ときに五年、そして誠に残念ですが自己防御力が回復せず、治癒に至らない場合も多々あります。時間がかかっても治癒できるように全力で取り組んでほしいと思います。

図3



自力の回復は攻めの心で

私は四半世紀に亘って還元電子治療(図3)を行っています。これもまた他力に過ぎません。ただ他力を用いて自力を回復するとき、もっとも自力を回復しやすい療法が還元電子治療です。自力、すなわち自己防御力は①細胞の元気度、②免疫力の丈夫さ、③炎症の鎮静度からなっていますが、還元電子治療は細胞の新陳代謝を良くし、免疫力を向上させ、そして炎症を抑制する効果があります。がん治療では、この還元電子治療をベースにし、そこにいろいろな治療を組み合わせるやり方が良いです。たとえば還元電子治療に抗がん剤治療、あるいは還元電子治療に放射線治療、還元電子治療に手術など、もし三大療法が行えない場合でも還元電子治療にサプリメント、あるいは還元電子治療に漢方薬、そして還元電子治療単独ということもあります。締めの話になりますが、自力を高めるために必須の条件があります。それは気持ちです。心です。病

気が何であれ、闘う攻めの気持ちが必要です（図4）。相手が手強いがんだと思い込み、怖気づいてしまった時点で、すでに勝負が決まってしまいます。それでは自己防御力は回復しません。自力を回復するために、常に攻めの心を持ってください。治癒のチャンスは必ず訪れます。

【堀口裕先生プロフィール】
北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。